

201419004B

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業

地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の  
実態把握及びニーズ把握と支援マニュアル作成

平成24年度～26年度 総合研究報告書

研究代表者 遠藤 浩

平成27（2015）年3月

## 目 次

### I. 総合研究報告

地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握  
及びニーズ把握と支援マニュアル作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

主任研究者 遠藤 浩

II. 研究成果の刊行に関する一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

III. 『高齢知的障害者支援のスタンダードをめざして』・・・・・・・・・・13

地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握

---

及びニーズ把握と支援マニュアル作成

総合研究報告書

地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握及び  
ニーズ把握と支援マニュアルの作成

主任研究者 遠藤 浩<sup>1)</sup>

1) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

【研究要旨】

高齢の知的障害者は着実に増えている。知的障害（児）者基礎調査において、平成 12 年段階で 65 歳以上の在宅の知的障害者が 9,200 人、平成 17 年で 15,300 人と推計されている。この 5 年間で 66% 増えている。同様の伸び率が続いていると仮定すると、平成 22 年 11 月時点で、在宅の知的障害者は 2.5 万人以上と推測される。また、全国知的障害児者施設・事業実態調査報告の結果では、入所施設を利用している 65 歳以上の知的障害者は、平成 9 年で 2,404 人、平成 22 年で 6,601 人に増えており、この間約 3 倍弱の増加が見られる。

しかし、高齢知的障害者の実態並びにその生活状況や健康状況、必要な支援ニーズに関して調査したものは非常に少ない。また、福祉サービスの利用状況（障害福祉サービス、介護保険サービス、あるいはその併給）についても、個別の事例報告が登場し始めた段階に過ぎない。さらに、知的障害者と同じく人生の早期よりその兆候が明らかな発達障害の高齢化の問題についての調査は皆無である（知的障害を併存する自閉症については、症例報告や調査報告が数件存在する）。高齢知的・発達障害者の実態とニーズ把握が急務であり、支援方法並びに支援体制の構築についても早急に検討が必要な段階に差し掛かっている。

そこで、本研究は、高齢知的障害者並びに発達障害者の実態を把握し、高齢期固有の生活状況や必要な支援体制に関する課題を明らかにし、先駆的な実践事例をもとに、高齢化に伴う健康管理や身体介護・医療的ケアのモデルを作成し、包括的な支援マニュアルを完成させることを目的とする。

平成 24 年度から平成 26 年度までの 3 年間にて実施した本調査研究は主に 3 つのテーマに分類できる。まず、1 つ目のテーマは高齢知的障害者の全体像及び地域で生活する高齢知的障害者の把握である。高齢知的障害者数の把握のため、市区町村への悉皆調査を実施するとともに、特定の 2 つの地域の高齢者世帯の全戸調査を実施し、高齢知的障害者の把握を試みた。次に、2 つ目のテーマは障害者支援施設及び特別養護老人ホームにて生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握である。障害者支援施設における高齢知的障害者の生活実態の把握のため、悉皆調査を実施し、各障害者支援施設が抱えている課題を明らかにした。また、特別養護老人ホームで生活する高齢知的障害者数についても明らかにした。さらに、双方の施設の新規の入退所状況を把握し、それぞれの施設がどのように機能しているのか、その実態を検討した。最後に、高齢発達障害者の実態把握を行った。先行研究のレビューのほか、ホームレス支援事業所及び生涯学習・社会教育事業所を対象に高齢発達障害者の利用実態について明らかにする調査を実施した。また、高齢期の知的障害のない発達障害者の高齢化対策の基礎資料とするため、全国 88 ヶ所の発達障害者支援センターを対象にしたアンケート調査を実施した。

以上の調査結果で得た知見を元に、包括的な支援マニュアル『高齢知的障害者支援のスタンダードをめざして』を作成した。

### 分担研究者

谷口泰司	関西福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授
橋本創一	東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授
市川宏伸	一般社団法人日本発達障害ネットワーク 理事長（平成 25, 26 年度）
木下大生	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科 准教授（平成 25, 26 年度）
志賀利一	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部長（平成 24 年度）

### 研究協力者

祐川暢生	社会福祉法人侑愛会障害者支援施設侑愛荘 施設長
渡邊一郎	足立福祉事務所援護課高齢援護係
高木佐知子	特定医療法人社団鵬友会新中川病院 内科医
土井桂子	元鳥取県厚生事業団
北川みゆき	福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 非常勤講師
青山 均	横浜市社会福祉協議会障害者支援センターエイティネットプロジェクト横浜
江副 新	NPO 法人すぎなみ障害者生活支援コーディネートセンター 代表理事
有賀道生	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 診療部長
大村美保	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部研究係
五味洋一	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部研究係
相馬大祐	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部研究係
信原和典	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部研究係
村岡美幸	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部研究係

### A. 研究目的

平成 12 年に旧厚生省において「知的障害者の高齢化対応検討会」が開催された頃から、高齢知的障害者の支援について興味関心が高まりはじめた。しかし、検討会では知的障害者の高齢化に向けての方針が示されているだけで、その後現在に到るまで、高齢知的障害者の実態ならびにサービス利用、さらには必要とする支援方法や医療的ケア等に関する包括的な調査研究は実施されていない。

そこで、本研究は施設や地域で生活する高齢知的障害者の実態を広く把握するとともに、現状における課題や先駆的な取り組みを整理することで、今後の高齢知的障害者への支援や施策を検討する上での基礎資料を得ることを目的とする。

また、高齢化に伴う健康管理や身体的介護・医療的ケアは、若年期・壮年期を中心とした知的障害者の支援方法と大きく異なると予測される。この支援方法に関する包括的なマニュアルは、高齢化が進む現在では急務の課題であり、その作成も目的とする。なお、本研究における高齢知的・発達障害とは断りのない限り、65 歳以上の者を言い、発達障害とは発達障害者支援法の定義に従うものとする。

### B. 研究方法

本研究は大きく下記の 3 つに分類される。1. 高齢知的障害者の全体像及び地域で生活する高齢知的障害者の把握、2. 障害者支援施設及び特別養護老人ホームにて生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握、3. 高齢発達障害者の実態把握。以上の研究を実施し、『高齢知的障害者支援のスタンダードをめざして』を作成した。以下、それぞれのテーマにおける研究方法を記す。

#### 1. 高齢知的障害者の全体像及び地域で生活する高齢知的障害者の把握

本テーマにおける研究は（1）高齢知的障害者の人数及びサービス利用実態の把握と（2）未把握であった高齢知的障害者の生活実態の把握に分類できる。

### (1) 高齢知的障害者の人数及びサービス利用実態の把握

平成 24 年度は市区町村を対象に、高齢知的障害者の実数を明らかにすることを目的に郵送によるアンケート調査を実施した。調査は全国 1,735 自治体(福島第 1 原子力発電所の事故に配慮し、自治体機能を移している福島県 7 町村は除外)を対象とした。

平成 25 年度は、平成 24 年度に実施した市区町村への悉皆調査の結果を踏まえ、介護保険サービス、障害福祉サービスの双方を柔軟に利用できるよう対応している市区町村等へ電話調査を実施した。

### (2) 未把握であった高齢知的障害者の生活実態の把握

平成 24 年度は障害福祉法制、介護保険法制以外の施設に入所する高齢知的障害者の実態を統計資料から抽出し、検討した。

平成 25 年度は、地域特性の異なる 2 自治体の協力を得て、①これまで未把握であった者を含む高齢知的障害者の推計と、②これら高齢知的障害者が置かれた現状及び抱える生活課題を明らかにすることを目的に、基準日時点での在宅・施設を網羅した実態調査を行った。

## 2. 障害者支援施設及び特別養護老人ホームにて生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握

本テーマにおける研究は、(1) 障害者支援施設にて生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握と、(2) 特別養護老人ホームにて生活する生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握に分類される。

### (1) 障害者支援施設にて生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握

初年度である平成 24 年度は、福島第 1 原子力発電所の事故により所在地が不明もしくは一時的な移転を余儀なくされている 3 施設を除く、全国 2,597 ヶ所の障害者支援施設を対象とし、アンケート調査を実施した。

平成 25 年度は、高齢となり新規で障害者支援施設に入所した者及び退所した者の情報を整理するとともに、医療的な支援体制整備の課題について、障害者支援施設で勤務する看護師及び管理職に聞き取り調査を実施し、その結果を整理した。さらに、近年増加していることが指摘されている、知的障害者の認知症に関連する研究課題を明確にするために、先行研究の整理を行った。

### (2) 特別養護老人ホームにて生活する生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握

平成 25 年度に、特別養護老人ホームにおける 65 歳以上の知的障害者の利用実態及び入退所状況を把握するため、全国の特別養護老人ホーム 6,311 ヶ所から都道府県別に一定の割合で無作為抽出した 1,000 ヶ所を対象にアンケート調査を実施した。

## 3. 高齢発達障害者の実態把握

平成 24 年度は 2000 年以降に刊行された学術誌を対象に、「高齢期 (Older Adult)」「発達障害 (Developmental Disabilities/Disorders)」「自閉症スペクトラム障害 (Autistic Deficit/Hyperactivity Disorder: ADHD)」等のキーワードにより検索し、関連研究論文をレビューした。

平成 25 年度は、高齢発達障害者の生活を支えるサービスや支援の在り方を検討するための基礎資料を得るために、ホームレス支援事業所 65 ヶ所 (65 歳以上 2,635 人) と高齢者向けの生涯学習・社会教育事業所 117 ヶ所 (65 歳以上 32,283 人) における高齢化の状況と高齢利用者の特性やトラブル、サポートなどの実態を把握するための調査を実施した。

平成 26 年度は高齢期の知的障害のない発達障害者の現状を明らかにし、支援課題及び発達障害児・者の高齢化対策の基礎資料とするため、全国 88 ヶ所の発達障害者支援センターを対象にしたアンケート調査を実施した。

### (倫理面への配慮)

本研究は、「独立行政法人等の保有する個人情報保護に関する法律 (平成 15 年法律第 59 号) 及び「疫

学研究に関する倫理指針（平成 14 年文部科学省、厚生労働省告示第 1 号）」を遵守し、実施された。実施に際しては、調査協力機関に個人情報の取り扱い等について事前に説明を行い、同意を得た。また、データと個人を特定する情報との連結可能性を低くするために、原則として、協力機関において既に匿名化されたデータを収集した。

## C. 結果と考察

### 1. 高齢知的障害者の全体像及び地域で生活する高齢知的障害者の把握

#### (1) 高齢知的障害者数及び市区町村における対応の把握

平成 24 年度に実施した悉皆調査の結果、1,198 自治体より回答が得られた。その結果、療育手帳所持者数は 675,840 人であり、そのうち 65 歳以上の人は 38,748 人、割合にして 5.7%であった。平成 23 年度福祉行政報告例における療育手帳所持者数は 878,502 人であり、その 5.7%は約 5 万人に相当する。各自治体における高齢知的障害者の障害福祉サービスと介護保険サービスの運用については、①介護保険サービスを優先、②障害者サービス優先、③両者の中間、④本人の意向優先の 4 つのタイプに分けることが出来た。介護保険サービスと障害福祉サービスの併給を実施している自治体は全体の 31.8%であり、人口規模 10 万人以上の自治体では 59.6%が併給を行っていた。障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する際の運用上の課題としては、「要介護認定区分が障害程度区分と比較して低くなる」「上限額の設定から利用回数に制限がかかる」等が回答されていた。また、高齢になった障害者の支援の在り方について、地域の関係機関と連携し、問題整理と解決に向けて取り組み始めた事例も少数ながら存在した。

平成 25 年度に実施した市区町村悉皆調査の再整理と電話調査の結果から、福祉サービス利用の課題を再整理し、本人の利用意向を把握する取り組みや市区町村で解決できる課題への取り組みをまとめた。

#### (2) 未把握であった高齢知的障害者の生活実態の把握

救護施設の実態調査からは、入所者のうち身体的・知的・精神のいずれかまたは重複の障害を有する者が 2005 年で 88%、2009 年で 86%を占めていることを確認した。入所前の居所として、在宅が 36.0%、医療機関からの入所が 40.7%を占めていた（うち 30.4%は精神科病院）。養護老人ホームの実態調査からは、入所者の 17.7%が身体障害者手帳を、3.8%が療育手帳を、4.0%が精神保健福祉手帳を所持していた。ただし、手帳の有無を問わなければ、知的障害 5.4%、精神障害 10.3%という結果であった。入所前の居所として、居宅からの入所 63.1%、高齢者施設・障害者支援施設からの入所 13.5%医療機関からの入所 13.4%であった。これらの調査結果から、65 歳以上の高齢知的障害者数は、救護施設で 3,627 人、養護老人ホームで 2,118 人と推計され、これらの施設が一定の役割を果たしていることが分かった。現状では、両施設とも、地域包括ケア体制や自立支援協議会等の構成員として、地域の連携軸の中に組み込まれておらず、地域の福祉計画にも全く考慮されていない。さらに、これらの施設では、支援を行う上での人的配置が不十分であり、適切な個別支援が提供できないのではと危惧された。

平成 25 年度の 2 つの地域における調査から、在宅ならびに施設入所合わせて高齢者人口の約 0.64%、人数にして全国に約 19 万人の 65 歳以上の知的障害者の存在が推測された。また、「障害者白書」（平成 17 年全国実態調査を根拠）における推計値の約 10 倍、「平成 23 年生活のしづらさなどに関する調査」等における推計値の約 3 倍の高齢知的障害者が、在宅・障害者支援施設以外の社会福祉施設及び介護保険施設に広く存在することが明らかとなった。さらに、知的障害と生活課題の因果関係の実証には至らないものの、高齢知的障害者の少なからずに住環境・家族関係等にかかる課題を抱え、近隣との関係も良好ではないなど、現在及び将来にわたる地域生活の継続に不安を残す結果となった。

障害者・高齢者福祉法制の狭間にある高齢知的障害者の支援については、共生社会の実現という理念

に即した見直しとともに、地域支援のあり方についても再考されるべき課題を示唆する結果となっている。現在把握されている高齢知的障害者よりはるかに多くの者が未把握で存在すること、その少なからずの者が生活課題を抱えるとともに、公私を問わず支援へのアクセスが十分とは言えない現状を示唆するものと考えて良い。また、これらの生活課題の中には、家族の支援力など経年により変化する（高齢期になるほど顕在化する）もの以外は、高齢期以前から、場合によっては何十年にわたり社会・地域から排除された状態で継続しているものもあると考えられた。

## 2. 障害者支援施設及び特別養護老人ホームにて生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握

### (1) 障害者支援施設にて生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握

平成 24 年度に実施した調査に回答のあった 1,506 ヶ所の障害者支援施設（回収率 58.0%）に入所している 82,126 人の障害者のうち、65 歳以上の者は 15.7%、50 歳以上の者は 49.4%を占めていた。また、(旧)知的障害者入所更生施設または授産施設であった 1,003 事業所に入所している 57,508 人について見てみると、65 歳以上の者は 12.8%。50 歳以上に者は 43.7%を占めていた。市区町村悉皆調査と比較すると、障害者支援施設における高齢化率はかなり高く、さらに 50 歳以上が半数を占めている現状から、知的障害者の高齢化は急激に進んでおり、高齢化に対応できる居住型施設として障害者支援施設の役割は今後も重要になると思われる。さらに、高齢化に対応した具体的な支援は、概ね 50 歳に差し掛かる頃から必要になってくる。施設では、①専門性向上、②生活（日課）の見直し、③高齢者向けの日中活動、④施設・設備のバリアフリー化、⑤平時・緊急時の医療的対応力の強化、⑥終末期の支援、の観点から高齢化対応が求められる。

平成 25 年度の調査結果から推計すると、全国の障害者支援施設において新たに入所した 65 歳以上の

知的障害者は約 212 人であり、既に入所している者のうち 65 歳になった者が約 1,180 人であった。一方、退所した 65 歳の知的障害者は 1,000 人強となった。

新規に入所した者のうち在宅から入所に至った者は全国で 55 人程度と推測され、多くは他の障害者支援施設やグループホーム等からの入所であった。在宅からの入所は、下記の特別養護老人ホームの新規入所の結果よりはるかに少なく、在宅の高齢知的障害者が入所する施設は障害者支援施設ではなく、多くは特別養護老人ホーム等に入所していることがわかる。一方、既に入所している者にとって障害者支援施設は「終の棲家」になっている。また、65 歳以降の入所の 3 分の 1 を占めるグループホーム等からの入所者の多くが再入所であり、かつて障害者支援施設から地域移行した人が、重介護となった事例だと考えられる。

障害者支援施設における医療的な支援体制の課題については、高齢の知的障害者は多様な疾病のリスクを有しているだけでなく、コミュニケーションの難しさや検査への抵抗等の理由から発見が遅れることが多く、先天的な易罹患性と相まって疾病が重篤になりやすいことが指摘されている。管理者および医療職等からの聞き取り結果からは、そうした高齢知的障害者の医療的な課題について「支援の多様化・高度化」「医療職と福祉職の認識の隔たり」といった視点で整理することができた。また、NTG-EDSD が、認知症や認知機能障害の早期発見につながるツールとなるか否かは、今後更なる実施を行い、その結果から検証が必要と考えられた。

### (2) 特別養護老人ホームにて生活する生活する高齢知的障害者の生活実態及び入退所状況の把握

知的障害のある入所者が特別養護老人ホーム入所者全体に占める割合は 1.44%で、平成 25 年 7 月現在の特別養護老人ホームに入所する知的障害者数は全国で 6,423 人と推計された。また、平成 24 年度 1 年間で特別養護老人ホームに新規入所した知的障害者数は全国で 1,671 人と推計された。新規入所する知的障害者の入所理由は入所経路によって異なっていた。障害者支援施設からの入所では本人の心身機



能の低下に施設の設備や支援が対応できないこと、家庭からの入所では本人の心身機能の低下及び家族を含めた在宅生活の支えの喪失、他の老人福祉・老人保健施設からの入所では急性期を過ぎたことや経済的事由及び家族に近い施設への移行が主なものとして挙げられた。1年間の退所は全国で400人と推計され、うち死亡退所が93.1%を占めた。地域で生活する知的障害者を支えるためのサービス及び支援の在り方について、高齢期となった知的障害者の居住の場とその経路を踏まえた検討が求められる。

### 3. 高齢発達障害者の実態把握

平成24年度実施した先行研究のレビューから、高齢の自閉症スペクトラム障害(ASD)や注意欠陥・多動性障害(ADHD)に関する研究は、子どもや若い成人に比べ、世界的にみて著しく限られていることが分かった。高齢発達障害者に関する実態把握や研究をすすめる前提として、子どもの頃に診断されて高齢者となった者が数少ない現況では、少なくとも壮年期や、高齢期に至ってからの発達障害の診断基準と診断ツール等の検討や開発研究が求められ、それをもとに高齢者を支援し、接する職業人(専門家)の共通理解を促した上で、実態把握の調査研究を展開する経過をたどる必要性が確認された。

平成25年度における調査の結果、ホームレス支援事業所には36人(1.4%)高齢発達障害者が利用していた。一方、高齢者向けの生涯学習・社会教育事業所を利用する発達障害者はいなかった。生涯学習・社会教育事業所は、発達障害にかぎらず生活の生きづらさを抱える高齢者が利用する資源ではないものと推測される。ホームレス支援事業の高齢利用者のなかには、ほかに精神障害や軽度知的障害、身体障害、認知症、特定疾患のある人が多数利用していた。高齢発達障害者は、特性の著しさから、対人関係面(他の利用者に対して)や金銭面のトラブルが多くみられた。また、疾患による定期的な通院をする人が多く、事業所ではメンタル面や生活面、健康面における個別のサポートがいずれも高く実施されていた。高齢知的障害者の支援ニーズとの共通性が認められることが明らかとなり、特に対人関係面や金銭面、

生活面における支援ニーズの強度が高いことが判明した。

平成26年度実施した調査に回答のあった発達障害者支援センターにおける2013年度内の相談支援・発達支援、及び相談支援・就労支援の実支援人員総数は56,476人(100.0%)であり、その内50歳以上で確定診断を受けている発達障害者は84人(0.14%)、確定診断を受けていないが発達障害の疑いがある人は59人(0.10%)であった。なお、65歳以上では、確定診断を受けている発達障害者は3人、疑いがある人が6人であった。

### D. 結論

平成24年度、25年度、26年度の研究結果から、包括的な支援マニュアル『高齢知的障害者支援のスタンダードをめざして』を作成した。

作成にあたっては、本研究が実施した調査研究の知見を踏まえ、施設及び地域で生活する高齢知的障害者の生活実態と課題を紹介することが重要であると判断した。さらに、高齢になる前の40歳・50歳代における高齢期の生活を見据えた支援を示すことも重要であると考え、高齢になった知的障害者の実態及び高齢期の生活を見据えた支援の2つの視点に基づき、事例形式にてまとめた。

### E. 研究発表

#### 1. 論文発表

- ・谷口泰司：障害者の地域生活移行支援にかかる諸課題－養護老人ホーム・救護施設・障害福祉計画の現状より．関西福祉大学社会福祉学部研究紀要16(1)，47-56，2012.
- ・塚越真二・湯浅智代・村岡美幸：高齢知的障害者の地域での日中活動．さぼーと，59(10)，30-35，2012.
- ・相馬大祐・村岡美幸・木下大生・森地徹：地域で生活する高齢知的障害者のサービス利用に関する研究．発達障害研究34(1)，69-77，2012.
- ・木下大生・有賀道生・上原徹・井沢邦英・村岡美幸・志賀利一：知的障害者用認知症判別尺度日本語版DSQIIDの開発に関する研究－感度と特異度

- の検証を中心として－. のぞみの園研究紀要 5 号, 49-62, 2012.
- ・村岡美幸：「認知症になった知的障害者」の支援について考える. 手をつなぐ 686, 40-41, 2013.
  - ・大村美保：高齢の知的障害者等に対する支援のあり方. ノーマラージュン 6月号, 24-25, 2013.
  - ・相馬大祐・五味洋一・志賀利一・村岡美幸・大村美保・井沢邦英：高齢知的障害者の死亡原因と罹患状況. 厚生指標 60(12), 26-31, 2013.
  - ・五味洋一・相馬大祐・志賀利一・村岡美幸・大村美保：障害者支援施設における知的障害者の高齢化の実態. 精神科臨床サービス 14(1), 107-111, 2013.
  - ・相馬大祐・志賀利一・五味洋一・大村美保・村岡美幸・木下大生：65 歳以上の知的障害者の状態像とサービス利用状況－市区町村悉皆調査の結果より－. 国立のぞみの園紀要 6 号, 1-13, 2013.
  - ・五味洋一・志賀利一・大村美保・村岡美幸・相馬大祐・木下大生：障害者支援施設における 65 歳以上の知的障害者の実態に関する研究－身体・認知機能の実態と支援上の課題に関する悉皆調査から－. 国立のぞみの園紀要 6 号, 14-24, 2013.
  - ・五十嵐敬太・佐藤愛美・中里ゆかり：高齢知的障害者の日中活動の充実に向けて－これまでの活動歴を振り返る－. 国立のぞみの園紀要 6 号, 98-107, 2013.
  - ・村岡美幸・志賀利一・井沢邦英：高齢知的障害者の健康管理と医療・介護に関する調査・研究－のぞみの園利用者の骨折事故と診療記録から－. 国立のぞみの園紀要 6 号, 119-126, 2013.
  - ・相馬大祐・五味洋一・大村美保・村岡美幸：高齢知的障害者の福祉サービス利用の実態と制度上の課題. 発達障害研究 36(2), 109-119, 2014.
  - ・谷口泰司：高齢知的障害者に対する地域支援を巡る諸課題－各種実態調査および地域支援諸施策の検証からの一考察－. 発達障害研究 36(2), 120-128, 2014.
  - ・北川みゆき：高齢知的障害者を介護老人施設で支援するための展望について. 発達障害研究 36(2), 129-138, 2014.
  - ・祐川暢生：高齢知的障害者支援の責任と支援のポ
- イントー全国知的障害児者施設・事業調査報告から見えてくること－. 発達障害研究 36(2), 148-158, 2014.
- ・村岡美幸・大村美保・五味洋一・相馬大祐：障害者支援施設で生活する高齢知的障害者の転倒リスクと転倒リスク軽減に関する実践報告. 発達障害研究 36(2), 159-168, 2014.
  - ・有賀道生：高齢知的障害者における医療と福祉. さぼーと 692, 18-20, 2014.
  - ・大村美保：高齢化⑧地域ので支え合う仕組みづくり. 手をつなぐ特別号, 36-37, 2015.
  - ・相馬大祐・志賀利一・大村美保・五味洋一：市区町村における高齢知的障害者への支援－福祉サービス利用とその対応に着目して－. 国立のぞみの園紀要 7 号, 1-6, 2014.
  - ・五味洋一・大村美保・相馬大祐・志賀利一・村岡美幸：障害者支援施設における高齢知的障害者の入所および退所の実態. 国立のぞみの園紀要 7 号, 7-15, 2014.
  - ・大村美保・志賀利一・相馬大祐・村岡美幸：特別養護老人ホームにおける知的障害者の実態に関する研究－利用実態及び入退所に関する抽出調査から－. 国立のぞみの園紀要 7 号, 16-24, 2014.
  - ・鈴木嶺太・中曾根隆・小林優樹・木村暢子：高齢知的障害者の転倒に関する研究－介入結果から見えた重要な 3 つのポイント. 国立のぞみの園紀要 7 号, 25-33, 2014.
  - ・村岡美幸・志賀利一・井沢邦英：高齢知的障害者の健康管理と医療・介護に関する調査・研究－75 歳以上の重度知的障害者の疾病状況から見る長生きする重度知的障害者の特徴－. 国立のぞみの園紀要 7 号, 34-44, 2014.

## 2. 学会発表

- ・木下大生・有賀道生・上原徹・井沢邦英・村岡美幸・志賀利一：知的障害者用認知症判別尺度 DSQIID 日本語版の感度・特異度の検討. 第 13 回認知症ケア学会, 2012.
- ・相馬大祐：高齢知的障害者の健康管理と医療・介護に関する調査・研究. 第 60 回日本社会福祉学会,

2012.

- ・谷口泰司：施設入所障害者の地域生活移行支援にかかる諸課題－養護老人ホーム・救護施設・障害福祉計画の現状より－. 第60回日本社会福祉学会, 2012.
- ・五味洋一・相馬大祐：障害者支援施設における高齢知的障害者の実態と支援上の課題. 日本発達障害学会第48回研究大会, 2013.
- ・相馬大祐・大村美保：65歳以上の知的障害者の状態像とサービス利用状況に関する研究. 第61回日本社会福祉学会, 2013.
- ・村岡美幸・相馬大祐：高齢知的障害者の骨折の実態. 日本介護福祉学会, 2013.
- ・五味洋一・信原和典：障害者支援施設における高齢知的障害者の入所および退所の実態. 日本発達障害学会第49回研究大会, 2014.
- ・橋本創一・志賀利一・相馬大祐・五味洋一・大村美保・村岡美幸・谷口泰司：65歳以上の高齢発達障害・知的障害者等の生活実態と支援について－ホームレス支援事業所の調査研究－. 日本発達障害学会第49回研究大会, 2014.
- ・谷口泰司：高齢期にある知的障害者の実数と生活課題にかかる一考察－ 高齢知的障害者実態調査を通じて－. 第62回日本社会福祉学会, 2014.

## Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 書籍

著者氏名	編集者	書籍名	発行元	出版地	出版年
登坂庸平 他	志賀利一・木下大生・ 村岡美幸・相馬大祐・ 大村美保・五味洋一	50歳からの支援 - 認知症になった知的障害者-	独立行政法人国立 重度知的障害者総合施設のぞみの園	群馬	2012

### 学術雑誌等

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大村美保	高齢化⑧地域の力で支え合う 仕組みづくり	手をつなぐ	特別号	36-37	2015
相馬大祐・五味洋一・ 大村美保・村岡美幸	高齢知的障害者の福祉サービス 利用の実態と制度上の課題	発達障害研究	36(2)	109--119	2014
谷口泰司	高齢知的障害者に対する地域 支援を巡る諸課題－各種実態 調査および地域支援諸施策の 検証からの一考察－	発達障害研究	36(2)	120-128	2014
北川みゆき	高齢知的障害者を介護老人施設 で支援するための展望について	発達障害研究	36(2)	129-138	2014
祐川暢生	高齢知的障害者支援の責任と 支援のポイント－全国知的障 害児者施設・事業調査報告から 見えてくること－	発達障害研究	36(2)	148-158	2014
村岡美幸・大村美保・ 五味洋一・相馬大祐	障害者支援施設で生活する高 齢知的障害者の転倒リスクと 転倒リスク軽減に関する実践 報告	発達障害研究	36(2)	159-168	2014
有賀道生	高齢知的障害者における医療 と福祉	さぼーと	692	18-20	2014
相馬大祐・志賀利一・ 大村美保・五味洋一	市区町村における高齢知的障 害者への支援－福祉サービス 利用とその対応に着目して－	国立のぞみの園紀 要	7	1-6	2014
五味洋一・大村美保・ 相馬大祐・志賀利一・ 村岡美幸	障害者支援施設における高 齢知的障害者の入所および退所 の実態	国立のぞみの園紀 要	7	7-15	2014
大村美保・志賀利一・ 相馬大祐・村岡美幸	特別養護老人ホームにおける 知的障害者の実態に関する研 究－利用実態及び入退所に関 する抽出調査から－	国立のぞみの園紀 要	7	16-24	2014
鈴木嶺太・中曽根隆・ 小林優樹・木村暢子	高齢知的障害者の転倒に関 する研究－介入結果から見えた 重要な3つのポイント	国立のぞみの園紀 要	7	25-33	2014
村岡美幸・志賀利一・	高齢知的障害者の健康管理と	国立のぞみの園紀	7	34-44	2014

井沢邦英	医療・介護に関する調査・研究 －75歳以上の重度知的障害者の 疾病状況から見る長生きする 重度知的障害者の特徴－	要			
村岡美幸	「認知症になった知的障害者」 の支援について考える	手をつなぐ	686	40-41	2013
大村美保	高齢の知的障害者等に対する 支援のあり方	ノーマラーゼーション	6	24-25	2013
相馬大祐・五味洋一・ 志賀利一・村岡美幸・ 大村美保・井沢邦英	高齢知的障害者の死亡原因と 罹患状況	厚生指標	60(12)	26-31	2013
五味洋一・相馬大祐・ 志賀利一・村岡美幸・ 大村美保	障害者支援施設における知的 障害者の高齢化の実態	精神科臨床サービ ス	14(1)	107-111	2013
相馬大祐・志賀利一・ 五味洋一・大村美保・ 村岡美幸・木下大生	65歳以上の知的障害者の状態 像とサービス利用状況－市区 町村悉皆調査の結果より－	国立のぞみの園紀 要	6	1-13	2013
五味洋一・志賀利一・ 大村美保・村岡美幸・ 相馬大祐・木下大生	障害者支援施設における65歳 以上の知的障害者の実態に関 する研究－身体・認知機能の実 態と支援上の課題に関する悉 皆調査から－	国立のぞみの園紀 要	6	14-24	2013
五十嵐敬太・佐藤愛 美・中里ゆかり	高齢知的障害者の日中活動の 充実に向けて－これまでの活 動歴を振り返る－	国立のぞみの園紀 要	6	98-107	2013
村岡美幸・志賀利一・ 井沢邦英	高齢知的障害者の健康管理と 医療・介護に関する調査・研究 －のぞみの園利用者の骨折事 故と診療記録から－	国立のぞみの園紀 要	6	119-126	2013
井沢邦英・志賀利一・ 村岡美幸・五味洋一・ 相馬大祐・木下大生・ 大村美保	高齢知的障害者の健康管理と 医療・介護に関する調査・研究 －のぞみの園利用者の診療記 録から－	国立のぞみの園紀 要	5	83-88	2012
木下大生・有賀道生・ 上原徹・井沢邦英・村 岡美幸・志賀利一	知的障害者用認知症班別尺度 日本語版DSQIIDの開発に関す る研究－感度と特異度の検証 を中心として－	国立のぞみの園紀 要	5	49-62	2012
相馬大祐・村岡美幸・ 木下大生・森地徹	地域で生活する高齢知的障害 者のサービス利用に関する研 究	発達障害研究	34(1)	69-77	2012
谷口泰司	障害者の地域生活移行支援に かかる諸問題－養護老人ホー ム・救護施設・障害保健福祉計 画の現状より－	関西福祉大学社会 福祉学部研究紀要	16(1)	47-56	2012
塚越真二・湯浅智代・ 村岡美幸	高齢知的障害者の地域での日 中活動	さぼーと	59(10)	30-35	2012

学会発表・講演等

発表者氏名	発表題目	学会名	形式	場所	発表年
五味洋一・信原和典	障害者支援施設における高齢知的障害者の入所および退所の実態	日本発達障害学会 第49回研究大会	ポスター	宮城教育大学	2014
橋本創一・志賀利一・相馬大祐・五味洋一・大村美保・村岡美幸・谷口泰司	65歳以上の高齢発達障害・知的障害者等の生活実態と支援についてーホームレス支援事業所の調査研究ー	日本発達障害学会 第49回研究大会	ポスター	宮城教育大学	2014
谷口泰司	高齢期にある知的障害者の実数と生活課題にかかると考察ー高齢知的障害者実態調査を通じてー	第62回日本社会福祉学会	口頭	早稲田大学	2014
五味洋一・相馬大祐	障害者支援施設における高齢知的障害者の実態と支援上の課題	日本発達障害学会 第48回研究大会	ポスター	早稲田大学	2013
相馬大祐・大村美保	65歳以上の知的障害者の状態像とサービス利用状況に関する研究	第61回日本社会福祉学会	口頭	北星学園大学	2013
村岡美幸・相馬大祐	高齢知的障害者の骨折の実態	日本介護福祉学会	ポスター	熊本学園大学	2013
鈴木嶺太	高齢知的障害者の転倒について	第42回群馬県知的障害者福祉協会研究発表会	口頭	群馬県社会福祉総合センター	2013
志賀利一	加齢により変化する知的障害者の支援について～中・後年になる知的障害者の実態～	第2回平成24年度社団法人長野県知的障害者福祉協会総会	講演	塩尻総合文化センター	2013
木下大生・有賀道生・上原徹・井沢邦英・村岡美幸・志賀利一	知的障害者用認知症判別尺度DSQIID日本語版の感度・特異度の検討	第13回認知症ケア学会	口頭	アクティビティ浜松	2012
相馬大祐	高齢知的障害者の健康管理と医療・介護に関する調査・研究	第60回日本社会福祉学会	ポスター	関西学院大学	2012
谷口泰司	障害者の地域生活移行支援にかかる諸問題ー養護老人ホーム・救護施設・障害保健福祉計画の現状よりー	第60回日本社会福祉学会	口頭	関西学院大学	2012

その他

発表者氏名	発表題目	誌名等	巻号	ページ	出版年
志賀利一	地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握及びニーズ把握と支援マニュアル	国立のぞみの園ニュースレター	43	4-5	2015

	ルの作成について				
相馬大祐	福祉セミナー2014「高齢知的・発達障害者とその支援」を開催しました	国立のぞみの園ニュースレター	43	6-7	2015
相馬大祐	市区町村における高齢知的障害者の福祉サービス利用に関する研究	国立のぞみの園ニュースレター	42	26-27	2014
五味洋一	「認知症の知的障害者のアセスメント・診断・治療および支援の手引きー」日本語版の発刊	国立のぞみの園ニュースレター	40	22-23	2014
志賀利一 他	独立行政法人設立10周年記念福祉セミナー「知的障害者の高齢化と認知症」を開催しました	国立のぞみの園ニュースレター	39	4-10	2013
村岡美幸	長生きしている知的障害者の特徴とは？	国立のぞみの園ニュースレター	39	11-13	2014
大村美保	「特別養護老人ホームにおける知的障害者数と入・退所の実態」の調査結果（速報）	国立のぞみの園ニュースレター	39	14-15	2014
五味洋一・大村美保	地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握及びニーズ把握と支援マニュアル作成（中間報告）	国立のぞみの園ニュースレター	37	15-19	2013
相馬大祐	全国自治体を対象とした65歳以上の知的障害者の実態調査の結果について（速報）	国立のぞみの園ニュースレター	36	12-14	2013
志賀利一	高齢知的障害者の医療と介護～骨折事例の分析から～	国立のぞみの園ニュースレター	36	17-19	2013
五味洋一	「地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握と支援マニュアルの作成」に関する全国調査の中間報告	国立のぞみの園ニュースレター	35	8-10	2013
志賀利一	知的障害者の高齢化に向けた対策が必要な時代に（Part4）	国立のぞみの園ニュースレター	34	6	2012
五味洋一	利用者の疾病および死亡原因に関する調査報告	国立のぞみの園ニュースレター	34	11-13	2012
志賀利一	知的障害者の高齢化に向けた対策が必要な時代に（Part3）	国立のぞみの園ニュースレター	33	7	2012
志賀利一	知的障害者の高齢化に向けた対策が必要な時代に（Part2）	国立のぞみの園ニュースレター	32	10	2012



### Ⅲ. 高齡知的障害者支援のスタンダードをめざして

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金事業

地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握及びニーズ把握と支援マニュアル作成

# 高齢知的障害者支援の スタンダードをめざして

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

# 目次

---

## 第1章 高齢知的障害者支援のあり方を考える

知的障害者の高齢化とその課題	1
知的障害者が高齢になると	5

## 第2章 データで見る高齢知的障害者

一般高齢者数と高齢知的障害者数	9
知的障害者の年齢分布	9
高齢知的障害者の居住の場	10
〈コラム〉平均寿命は延びている？	12
《Opinion》潜在的な高齢知的障害者の存在	13

## 第3章 高齢期のすこやかな生活を支える

イントロダクション	15
事例1：高齢知的障害者のケガと疾病のリスク	16
〈コラム〉看護師から見た入所施設の支援	20
〈コラム〉高齢知的障害者のターミナルケア	21
事例2：障害福祉サービスと介護保険サービスを活用する	22
〈コラム〉グループホームにおける高齢知的障害者への支援	26
〈コラム〉高齢知的障害者のコミュニケーション	28
事例3：在宅の高齢知的障害者が生活困難になったとき	30
〈コラム〉ライフストーリーワーク	34
《Opinion》支援のギアチェンジ	35

## 第4章 中年期から将来に備える

イントロダクション	38
事例4：40代から将来を考えはじめる	39
〈コラム〉知的障害者にとっての働き盛りとは	43
〈コラム〉先駆的な人間ドック事業	44
事例5：認知症になった知的障害者の支援を考える	45
〈コラム〉私のライフイベント	49
〈コラム〉40歳以降の初発のてんかん	50
《Opinion》 知的障害者の陥りやすい疾患とその予防	51
《Opinion》 中・高年期の支援環境の変化と必ずやってくる試練	54

## 第5章 知的障害のない発達障害者の高齢化

発達障害とは？	58
高齢期の発達障害者の人数	58
現在わかっている高齢期の発達障害者の状態像	59
《Opinion》 高齢期の発達障害者は増えていくのか	60

## 第6章 高齢知的障害者支援のスタンダードをめざして

高齢知的障害者支援の原則	63
スタンダードをめざして	64
《Opinion》 知的障害の程度による課題の整理	66

引用文献・参考資料	67
-----------	----